

今年も梅雨明けと共に夏の旅行シーズンが始まります。今年はどこに行こうかと思案するところから、すでに旅は始まっているといわれます。夏の定番といえば、北海道。その湿気のない、からりとした空気は訪れた人にしかわからない無二の魅力があります。今回は、道東の標津、深い自然に包まれた湯宿だいいちを訪ねました。

## 「合格者は、志と自信があふれてきました。」



若女将として10年目を迎えた長谷川志乃さんは、おもてなし検定を受けたスタッフの変化について、こう話してくれました。

**「おもてなし検定を通じて、スタッフに期待しているのは、お膳の並べ方のようなスキルのアップは勿論ですが、どこのお宿でも通じるプロフェッショナルとしての成長です。」**と、一人一人の人としての成長を細やかにバックアップしているといいます。また**「合格者は、リーダー格としてポジションを上げたり、会得したスキルと適性に合わせて配置換えをしたり、おもてなし検定を社内制度と積極的に関係させています。」**ということ、検定を効果的に活用されているようです。さらにおもてなし検定の魅力については、**「日頃の常識が実は非常識だったりすることがあります。是非多くのお宿にもお勧めしたいですね。」**とのことでした。

「若さにまかせて、ただがむしやりに頑張っていた自分。その変化を感じています。」

原ちづるさんは、フロント業務になって5年目を迎えました。業務もそれなりに自分のペースでできるようになってきたと感じていた矢先、このおもてなし検定の受検の話が舞い込んできました。**「検定のことを全く知らなかったので、きっと難しいし、忙しいし大変だろうな…って思っていました。」**と、当時の率直な気持ちをお話してくれました。**「一番、大きな変化は言葉遣いです。丁寧とは何か、よくわかってきました。自分自身の接客態度の変化を実感しています。」**



受験後のご自身の変化に驚きを隠せない様子でした。原さん自身は、今、館内にはおもてなしについて、従来のやり方と受験後の新しい考え方がやや混在していると感じているようです。**「でも時間をかけながら、うちのお宿らしい新しいおもてなしに交わっていくんでしょうね」と**明るく話していました。これからが楽しみです。

自然というのは、何も動物や植物だけのものとは限りません。人の暮らしもまた、その自然のなかの一部です。おもてなし検定が作り出す、新たな気づきの潮流は、決して流れが速くはないかも知れません。しかし、おもてなしの心を胸に秘め、お宿で働く人々は新しい時代へむけて着実に変化をしています。まるで北海道の大地にゆっくりと沈む夕陽が新しい明日へつながっていく、そんな大自然の営みのように。この夏は、道東を訪ねてみてはいかがでしょうか。